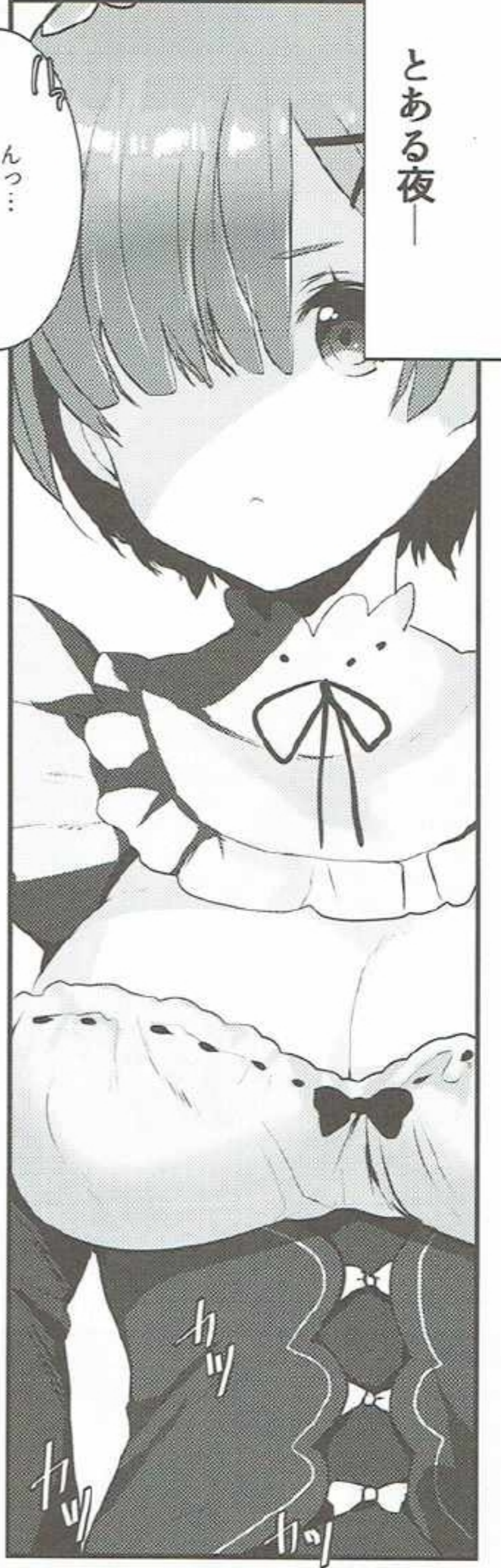


しむの♡エツキな
悩みを解決してください



DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

とある夜――



んっ…
ああッ…



ロズワール様あ…っ



この世は
姉…さまっ？



んっ…



ここが良いのか
なあ…あ？

あ…んっ
そこ、気持ちっ…



ロボワール様も
姉様も、とても...



これは...
一体何をして
いるのでしょうか...



あああああ
あああああ
あああああ

よおレム!
こんな夜中に何してん...



ちよつといいですか!

うおっ



なっ!
熱でもあるのか?
ほんなら俺の
部屋で洗濯...

ん?それよりレム:
なんだか顔が赤くないか?



ははは、
すまんすまん

す、スバルくんが
急に話しかける
からです!

そ、そんなに
驚かれるとへこむぜ
レムりん



ど、どうしたんだよ
いきなり

レムらしくもない

うるさいです。



スバルくん!

なっ
なんだ!?

かくかくしかじか

ーということが
あったんです

なるほど…

今から言うことは
他言無用でお願い
します!
もし漏らした場合は
命はないものと
思ってください

おっ
おう…!



そこにスバルくんが
来たというわけ
なんです

やべえ…
やべえやべえやべえやべええええ!

何言ってるんだよこのメイド様は!!!
ラムちーとロズっちが裸で抱き合ってる
気持ちよさそうにしてた?
あれは一体どういったことなんですか、だとお?
はあああああああ?
俺が聞きたいよ!二人ってそんな関係だったの?
いやそんなことはこの際どうでもいい!
なんで知らないの? (大事なことなんで一回言いました)

それセツ〇スですから!

くっそ…どう説明すればいい
心頭滅却心頭滅却…
考えろ、考えるんだ
ナツキ・スバル…!!

ここで紳士的な答えを説明し
好感度を上げるんだ…っ
そうだ、逆にチャンスと考えよう
ここは好感度を上げるチャンス!

よしッ やってやるぜえ!
この難易度SSSクラスの
ミッションをよおお
おおおおおお

スバルくん
……?!

今まで俺はいくつもの
修羅場をくぐって
きたと思ってるんだ…!
(死んでるけど)

そう、今日の俺は
阿修羅をも凌駕す…

スバルくんッ!!

お、おう
なんだどうした?

あの…
ご、ご相談がありました…
先ほどから、その…
む、ムズムズするんです

この辺りが…

……!
!?



な、何を言い出し…

よ、よし！
俺が確認しよう

いや待って待って
レムが困ってるんだ
それに答えるのが
男ってもんだろ！

えっ！！
どっ…どっ触らうと
してるんですか！

スバルくんは変態ですが
ここまでドイとは
思いませんでした…！

それ地味に
傷つくんだけど…



だっだらり…

ス、
スバルくん？



レム！

はっ
はいっ！

ムズムズするんだろ？
治してほしいんだろ？

それは…
そうですけど…



あっあの

スバルくんっ
そんなとこ…
汚いです…

治すなんて言っちゃまったが
ただのセックスだなんて
口が裂けても言えないぜ…



……



そういう問題では…

わあっ



レムの体に汚いとこなんて
あるわけないじゃないか



んっ…



んっ…



い、痛くないか…?

痛くは…ない…
です…っ

あぁっ

レムが人前でこんな顔する
とは…この声、息づかいまで
全部俺が独り占めできるん
だよな

い…
言いたくありませんっ

レムのここ、こんなに
濡れてるぜ
気持ちいいのか?

レリ

おま

おま

おま

おま

おま



ああああああ!!かわええええええツツ



い、今治してやるからな……!

ひゃい

こうなったら意地でも最後まで持ち込んでやるぜ!



あつ……んっ
スパ……ルくんっ

レムっ……



レムのおっぱい真っ白でやわらかくて……
すごく、良い匂いがするぜ……っ

何を言ってるんです……か

すまん、レム
少し荒治療になるかもしれん

そ、そんな……
ため……です

あ



なんと
わたしが
こ、こんな
辱めさ...

ほ、本当に...
治る...です...あつ

大丈夫だ
俺を信じろって！
俺がレムのムズムズを
すっきり治してやるからさ！

ーって
スバルくん

い、一体何を
する気
ですか...!!

お...お...

ア
ア
ア...

ミ
ミ
ミ...



ちよつと痛いかも
しれないけど
我慢してくれよ

これで治る
はず…だ!

くっ…嫌がつておきながらの
この吸いつき具合…
さすがSSS級…!

ちよつとスバルく



な、何を言っ
てるんですか

この太くて…
おぞましい…
モノを早く抜いて
…くださいっ

だ、大丈夫！
みんな最初はこうなんだ

も、もう少ししたら
体が楽に…気持ちよ
くなってくるから、な！

俺は何を言ってるんだ

は、はっ

わかりました…
スバルくんっ

でもレムもまんざらでもない
みたいだし、このまま…

とはいえ…
こんな純粋な女の子を
騙してセックスしてる
なんて最低だぜ…





イけるとこまでイって
やろうじやねえかああ!!

えっ
す、スバルくん??

このこの
体勢は恥ずかしい
んですが...

スバルくん
...??



ご、ごんなかっご...

いっめあよあよ

レムツ治療完了まで
あと少しだ...ツ



もっと自分に
素直になるんだ
レム!

気持ちよさを
体全体で感じるんだ

はん



しゅけ...の
くうん...

5113



レムッ...



は、は...
たくさん出して
くださいっ



だめだ、
もう限界だぜ...

ごん、ごん...
中じ田た...



これで、ようやく俺も
童貞を卒業だぜえ！
やった、やったー！



ついにやったぞ…
現実世界では
成し遂げられ
なかった事を…！



は…
はは…
やった…



あ、レム？
いやあ
あのさ

もしレムが良かったら
またムズムズしちゃった時
俺のことを呼んでもらえれば
いつでも助けにいくぜ！

どうだ？
また一緒に…って
レムりん…？



さて、
お掃除をしましょう



お、おいレム
そんな物騒なモン出して
どうする気だ…？

ま、ま…
早まるな…

や…



…そうです
なかった事にすれば
いいんです…！

ちょ…何言ってるか
わかんねえぜ…

Re:ゼロから始める日常生活

皆 「『王様ゲームッ！？』」

スバル 「おうっ！
俺の国で男女が仲良くなるために行っていた大人気レクリエーションだ！
たまにはパーッと遊ぼうじゃないか！」

ベアトリス 「ふんっ。くだらないかしら」

ラム 「くだらないわね」

レム 「さすがスバル君！」

スバル 「お前ら…レムありがとう！」

エミリア 「おえスバル。
その…王様ゲーム？って言うのはどんなことをするの？」

スバル 「さすが愛しのエミリアたん！いい質問だ！美しい！」

エミリア 「もうっ！スバル茶化さないでっ！」

スバル 「ははは では、ルール説明をしようっ！」

~~~~~ルール説明~~~~~

スバル 「ってことだ！わかったかな？」

エミリア 「うんっ！指名された人は、王様からの命令に  
絶対に従わなくちゃダメってことね！楽しそうかもっ！」

ラム 「レムレム、バルスはきっと王様になってイヤらしい命令をするのよ。  
汚らわしい。」

レム 「スバル君になら…!!!」

ラム 「…」

ベアトリス 「なんでベティまで巻き込まれなくちゃいけないのかしら！」

スバル 「そんなこと言うなよベア子ー」

ベアトリス 「フンッ！」

バック 「面白そうじゃないかスバル！」

ベアトリス 「!!! (ニーチャ参加だどっ!!!)」

スバル 「ではいっちょやってみますかー！  
ち・な・み・にー！王様の命令を無視したものは、  
明日お風呂の大掃除をやっていただきませう！」

エミリア 「はーい！」♪♪♪

レム 「わかりました！」

ラム 「まっ息抜きくらいにはなるわね」

バック 「かかって来いスバルー！」

ベアトリス (ニーチャと…へっへっへ)

スバル 「おいっベア子。顔がにやけてるぞ」

ベアトリス 「なっ！失礼しちゃうかしらっ！」

スバル 「じゃー記念すべき第一回目！いくぞー！皆さん！棒を引いたかな？  
では…王様だーれだっ！」

バック 「おっ僕が王様だね！」

ベアトリス 「きゃー！ニーチャ！」

エミリア 「さっバック命令してっ！」

スバル 「さすがバック！やるねー！でっ何を命令するんだいバック様は？  
あとエミリアたんその発言だけだとちょっと危ない発言のような…」

バック 「どうしようかなーん〜」

スバル 「無らしますねバックさん」

エミリア 「…」ワクワク

レム 「…」ドキドキ

ベアトリス 「…」カモンカモンカモン！

ラム 「…」

バック 「じゃ〜あ、1番のひとが〜」

スバル 「おっ俺だな！」

レム 「！」

バック 「王様の肩を揉むっ！」

スバル 「ははー！バック様！承知いたしました！」

モミモミ

スバル 「揉み加減はいかがでしようか？」

バック 「苦しゅうない！」

ベアトリス 「きいー！さっさと次やるかしらっ！」

スバル 「おっ！やる気でてきたなベア子！」

「では、二回目…王様だーれだっ！」

バック 「僕だよっ！」 えっへん！

スバル 「連続…だどっ！」

エミリア 「さあ！命令してバック！ちなみに私は3番だよ！」

スバル 「ちょ！番号言っちゃだめでしょエミリアたんっ！」

レム 「…」ドキドキ

バック 「じゃーね…2番の人がー」

ベアトリス 「っ！！！！！！」

バック 「王様のー…」

ベアトリス 「肩を揉めばいいのかしらっ！それともあ・つ・い・い・ベエエゼをおお」

バック 「前でスクワット100回！」

ベアトリス 「……」

ラム 「…フッ」

スバル 「はっはっは」

ベアトリス 「なに笑ってるかしらっ！フンッフンッ！」 スクワット中

エミリア 「がんばって！」

ラム 「くっ…」 75170171717

レム 「スバル君楽しそう。うふふ」

スバル 「では気を取り直して3回目！いってみましょう！王様だーれだ？」

レム 「レムですっ！」

スバル 「おっ！レムかっ！」

レム 「では、2番のお方が…」

スバル 「おっまた俺か」

レム 「!(ここで王様と抱擁と言えば…スバルくんと…)」

「おっ……(王様と…)」

「4番のお方と握手をしてくださいっ！」

ラム 「…」

スバル 「はははレムらしいな。でっ4番はだれなんだ？」

ベアトリス 「私かしらっ！フンッフンッ！」 スクワット中

~~~~~回数は進み~~~~~

スバル 「4番が王様の人の好きなところを3つ言う！」

ラム 「ないわ」「間違いなくないわ」「全くにないわ」

スバル 「ラムうろうろう！」

レム 「スバルくん！レムなら1000個は言えますよ！」 71771

~~~~~

ベアトリス 「王様カシラー—————！！！」 771777777！  
「ニーチャが王様に熱いベエエゼを！！！！！」

スバル 「番号じゃないから却下なー」

ベアトリス 「Nooooooooo!!!!!!!」

~~~~~

ラム 「3番が庭を10週よ。5分以内で」

スバル 「俺か…って無理だろっ！」

ラム 「早くしなさい。4分58…57…」

スバル 「ちくしょーいってきまーす！！」

レム 「スバル君がんばって！」

~~~~~

バック 「久々に僕だお！じゃーおー…4番がー」

ベアトリス「！！！！！！」

バック 「スクワット100回！」

ラム (´、ゝ、`)ﾌｯ

ベアトリス「ニーチャ…フンツフンツ！」 スクワット開始

~~~~~

レム 「王s…3番のお方が犬のモノマネをお願いします。」

ベアトリス「ワンツ…かしら」

スバル 「ちょW」

ラム 「あっはははは」 ハイハイ

レム 「ベアトリス様かわいいですっ！」

~~~~~

ラム 「1番庭30週」

スバル 「また俺かよー！」

~~~~~お気づきだろうか？~~~~~

スバル ……
ラム ……
レム ……
ベアトリス ……
バック ……

エミリア (ノA`)ｼｸｼｸ
「いいもん…私なんて…どうせ空気ピロインなんだから…」

スバル 「エミリアたん。つつ次は必ず王様になれるって！」

エミリア 「本当？」

スバル 「おっおう！」

エミリア 「絶対？」

スバル 「おう！」

エミリア 「グスッ…がんばる！」

スバル 「よしっ！その意気だエミリアたん！次行くぞ！」

エミリア 「さー来なさい！私の出番！」

スバル 「王様だーれ…(頼むエミリアになつてくれ…)」

「……あつ俺だ」

エミリア (´；ω；`)ﾌｯ
「もうスバルなんか大きらあああーい！」

スバル 「エミリアたあああああーん！」ｲｶｲﾀﾞ

ラム 「凄い勢いで走って行ってしまったわね」

バック 「じゃっ僕も抜けるねっ！じゃーねー！」

スバル 「えっ！あついつちまった…」

ベアトリス「ベティもニーチャがないのなら帰るかしら」 ｷｷｶﾞﾝﾊﾞﾝｶﾗ

~~~~~

スバル 「三人になつちまったしお聞きにするか！」

ラム 「いいえ。もう一回やるわよ」

スバル 「三人でか？」

ラム 「そうよ」

スバル 「俺は別にいいけど。レム大丈夫か？」

レム 「はい！レムはスバルさんと一緒ならいつまででも！」

スバル 「そうか！じゃーやりますか！  
では、本日も最終ゲームを行いたいとおもいま

ラム 「ラムから引かせてもらうわ」

スバル 「おい、まだ俺がしゃべってるだろーが…  
全く！だが俺の国では昔から伝わる格言があるんだよ！  
残り物には福がある」

ラム 「王様は私よ」

スバル 「ちくしょおおおおおお！！！！」

ラム 「バルスとレムに命令するわ」

スバル 「おいおい、確かにもう俺たちしかいねーけど番号にしてくれよな」

ラム 「3番と5番よ」

スバル 「！！！」

ラム 「二人で」

スバル 「ちょっと待ってくれ！なんで見もしないでそんな的確に俺たちの番号がっ  
…！！まさかラム！お前！！千里眼を」

ラム 「気づくのが遅すぎるんじゃないバルス」

スバル 「ずるいぞラム！こんなの不正だ不正！ノーカンだ！」

ラム 「何を言っているの？千里眼を使ってはいけないと言われてはいないわ  
さーひれ伏しなさいバルス！」

スバル 「くっ…」

ラム 「ラムが命じる！バルス！レムっ！」

スバル (たのむ…足をなめるとかそんなのは勘弁してくれ…)

レム 「はい！」ドキドキ

ラム 「今晚！

スバル (今晚…何をさせられるんだ…あーこえー)

ラム 「二人で同じベッドで一緒に寝なさい」

スバル 「よしっ！余裕じゃねーか…ん？」

レム 「…///」

スバル 「はあああああああ！！！！」

ラム 「全裸でね」 ﾂｼﾞ ﾂｼﾞ

スバル 「はあああああああ！！！！」

ラム 「うるさいわバルス」

スバル 「ちょっとまってちょっとまっていやいやいやおかしいだろ！」

ラム 「なにがよ」

スバル 「大事な妹なんだからこんなことさしちやだめだろ！」

ラム 「それはラムが決めること。王様の命令は絶対よ  
言いだしっぺがルールを破る気？」

スバル 「けどよお…レム？」

レム 「レムはスバルさんがイヤでないのでしたら///」

スバル 「！？」

~~~~~その夜~~~~~

コンコン

スバル 「おっ俺だけど」

レム 「はい…どうぞ入ってください」

スバル 「失礼するぜ
(おいおいおい。ホントにこのまま一緒に…)

レム 「お待ちしてました///」

スバル 「レム…」

レム 「少し狭いですが…こちらにどうぞ」

スバル 「おっおう」

ドキドキ

ドキドキ

レム 「あの…すばる君…」

スバル 「なっなんだ？」

レム 「…とでも申し上げにくいのですが…
ここで話は終わりです」

あとがき

はじめまして、魔太郎です。今回はリゼロのレム本ということで、いかがだったでしょうか。すごくレムが描きたかったのが非常に満足しています。ちょうど先日、例の18話の放送がありまして改めてスバルくんはひどい男だなあと思いました。あのレムを、即答で、振るとは…ちょっと同じ人間とは思えないです。

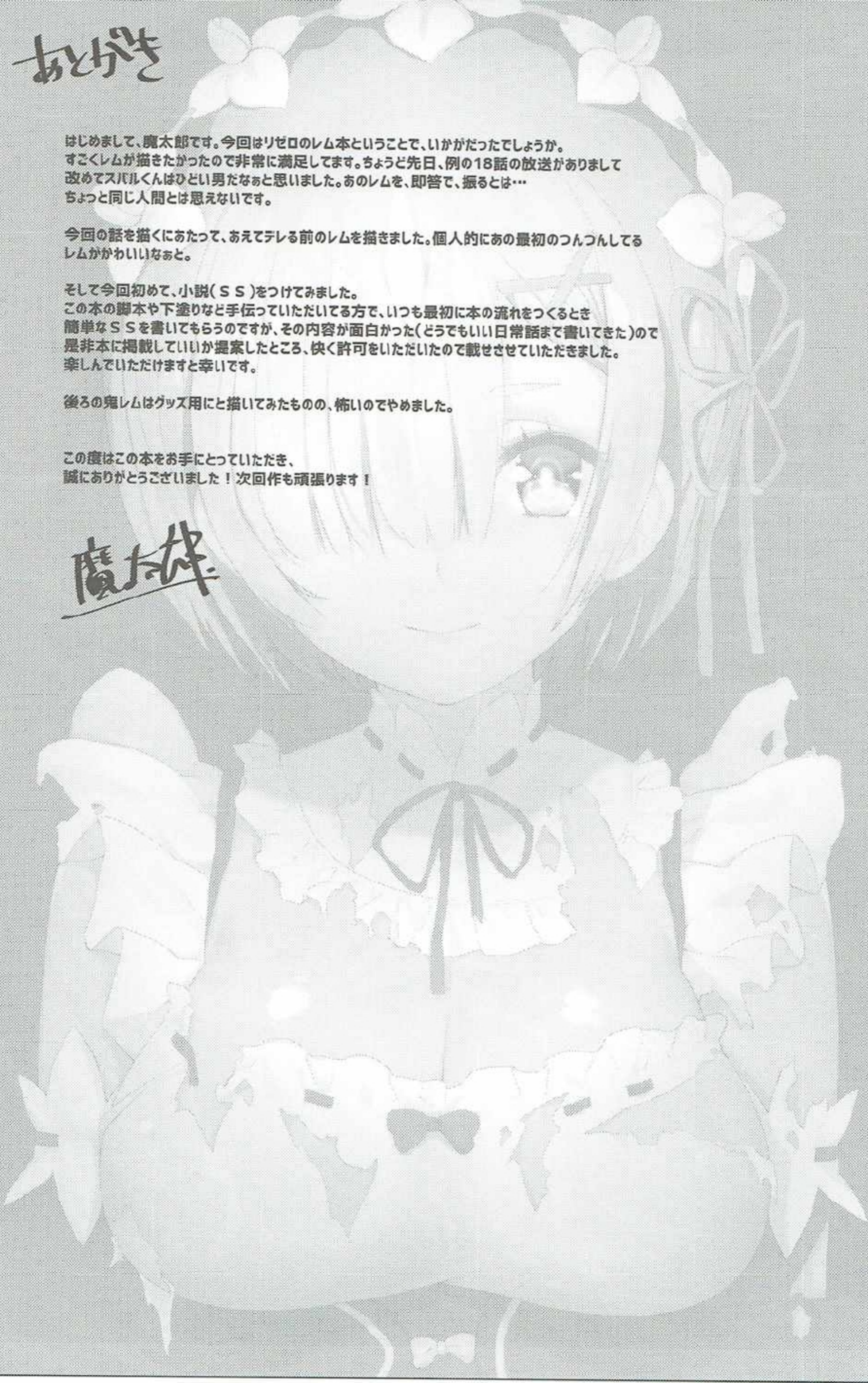
今回の話を描くにあたって、おえてデレる前のレムを描きました。個人的にあの最初のつんつんしてるレムがかわいいなあと。

そして今回初めて、小説(SS)をつけてみました。この本の脚本や下塗りなど手伝っていただいている方で、いつも最初に本の流れをつくるとき簡単なSSを書いてもらうのですが、その内容が面白かった(どうでもいい日常話まで書いてきた)ので是非本に掲載していいか提案したところ、快く許可をいただいたので載せさせていただきます。楽しんでいただけますと幸いです。

後ろの鬼レムはグッズ用にと描いてみたものの、怖いのでやめました。

この度はこの本をお手にとりいただき、誠にありがとうございました！次回作も頑張ります！

魔太郎





レムのイッ子な
悩みを解決してくださいっ

COMIC MARKET 90
2016.8.14 サークル：魔太郎

HP:<http://mataro777.wix.com/mataroweb>
TWITTER:MATARO_777

PRINTED BY 大陽出版 様

レムのエツ子な
悩みを解決してくださいっ